

東京大学日本語教育センター（本郷キャンパス）が
学部1・2年生のために開講する「全学自由研究ゼミナール」

「日本語を教える」とはのご案内

私たち日本語教育センターは東大の1セクションで、東大の留学生たちに日本語教育を提供することを主な仕事としていますが、また、駒場の1・2年生を対象に「**日本語を教える**」とは」という「全学ゼミ」も、2009年度冬学期以来、每期開講しています。

2017年度Aセメスターの詳細は、次のとおりです。興味のある諸君は、ぜひどうぞ。

授業科目名 全学自由研究ゼミナール

講義題目 「日本語を教える」とは

開講曜日・時間帯

毎週木曜日4限（14時55分ー16時40分まで）

開講場所 本郷キャンパス 日本語教育センター（第2本部棟5階）

授業の目標・概要

「日本語を外国語として教えること」（日本語教育）に関心のある皆さんのためのゼミです。

国際化が進むこれからの時代、皆さんが、身の回りや将来の留学生活などで「日本語を教える」経験をする可能性は（プロの日本語教師にはならないまでも）十分あるでしょう。また、皆さん自身が語学を学ぶ上でも、母語である日本語を外国語として観察することは貴重な経験です。こうした趣旨から、また、何よりも皆さんに日本語教育の魅力とその思いがけない深さを知ってもらいたい、日本語そのものの魅力も改めて感じてもらえたらという趣旨で、このゼミを開講します。

最終的な目標は、皆さんが実際に東大の留学生に日本語を教える「日本語教師ミニ体験」をすることであります。

「日本語を教える」という仕事は、学習者ができるだけ効率的に、かつ学習を愉しみながら着実に習得できるよう、よく考えて内容を設計する必要があります。そのためには、教授者は、

- 1) 日本語そのものを（例えば受身を教えるなら、日本語の受身の仕組みを）十分分析する）

とともに、

- 2) 「それを学習者にどう教えると（学習者がどう学ぶと）、よく理解でき、適切に使えるようになるか」を考え、
- 3) その方法を編み出し、実際に教育する、

というプロセスを踏むこととなります。

これは、日本語学・対照言語学・第二言語習得・学習心理学等、関連諸分野の成果を活かして組み立てていく魅力的な教育活動で、当然、それを有効に進めるための研究も伴います。本当は、こうした勉強を重ね、十分トレーニングを受けた後でないと教壇に立てないのですが、このゼミは、皆さんに日本語教育を知ってもらふ趣旨で、上の1)2)3)全てを「ミニ体験」してもらふ珍しいコースです。

授業体験をする前の内容は、「日本語教育の一端に触れる / 日本語の分析の一例 / 留学生に日本語学習について聞く / 日本語教育の基礎知識 / 教授項目の分析 / 教案と教材の作成 / 教授技術トレーニング」など、さまざまな準備に充てます。この間、担当教員が、ワークショップ方式（一緒に考えたり作ったりする）・ゼミ形式・講義形式を併用して指導・助言を行い、日本語教育の基礎知識を実践的に提供します。

これらを経て、実際に授業体験をし、授業を受けた留学生からコメントを得、実習報告会を行って締め括ります。

本センター（本郷キャンパス）は、日本語教育を専攻する教員たちが、世界各国から来た東大の留学生たちに初級から上級までの日本語教育を提供している場です。このゼミは、その教員たちが駒場生の皆さんのために開講するものですが、実際の教育現場の様子に接してもらうためセンターで開講します。場所は、龍岡門そば、本部棟の隣の第2本部棟5階です。

なお、このゼミは、2009年度冬学期（現在のAセメスター）に初めて開講して以来、幸い好評を得て、以後、每期、内容を改善しながら連続的に実施しており（先々期のみ臨時閉講）、今期は16期目です。これまで15期の受講者総数は約110名に達します。

授業計画

授業は、本センターの菊地康人教授（代表）、増田真理子准教授、前原かおる講師ほか数名の教員が関わって実施します。

日程と各回の内容は次のように予定しています（UTAS掲載の内容と同じ）。なお、実際に進んでいく過程で予定が変更になる場合もあります）。

- ① 9月28日：オリエンテーション / 日本語教育の一端に触れる 1 / 日本語の分析の一例 1
- ② 10月5日：日本語教育の一端に触れる 2 / 日本語の分析の一例 2 / 国内外の日本語教育事情
- ③ 10月12日：留学生に日本語学習について聞く / 日本語学習の観察
- ④ 10月19日：日本語教育の基礎知識 1
- ⑤ 10月26日：日本語教育の基礎知識 2
- ⑥ 11月2日：授業の流れと、具体的なイメージづくり
- ⑦ 11月9日：教授項目の分析 / 教案と教材の作成 1
[注：11/16(木)は、S1 ターム科目の試験日のため休講]
- ⑧ 11月30日：教案と教材の作成 2
- ⑨ 12月7日：教案と教材の作成 3 / 教授技術のトレーニング 1
- ⑩ 12月14日：教授技術のトレーニング 2
- ⑪ 12月21日：教授技術のトレーニング 3 / 最終的な練習
- ⑫ 1月11日：教壇に立つ！ / 留学生との交流会
- ⑬ 1月18日：振り返り（実習報告会）と総括 [注：12/27(水)は木曜の授業を行う日とされているが休講とし、1/18(木)を代講日とする]

授業の方法

1月11日は、実際に留学生を対象に「日本語を教える」体験。他の各回は、ワークショップ形式（一緒に考えたり、教案や教材を作ったりする）・ゼミ形式・講義形式を併用。

成績評価方法

出席、授業参加度、毎回の課題への取り組み、作成する教案、最終レポートなどを総合的に勘案します。なお、出席に関しては、下記「履修上の注意」も参照のこと。

教科書 使用しません。必要に応じてプリントを配付します。

履修上の注意

最終的な目標である「留学生に日本語を教える授業」に向かって毎回積み上げていくコースであり、また、教科書も使わないので、どの回も、欠席すると、その後に大きな支障を生じ、他の受講者にも迷惑がかかります。2回以上の欠席が初めから見込まれる場合は、受講を遠慮してください（2回以上欠席の場合、単位の認定はしません）。

なお、希望者が多い場合、2年生優先とします。

ガイダンス

初回 [9月28日(木)] の授業の中で行います。ただし、初回はガイダンスだけではなく、直ちに内容に入るので、受講希望者は必ず出席のこと。やむを得ず初回欠席の場合は、当日午前までに別記メールアドレスに連絡の上、第2回は必ず出席のこと。受講希望者が多い場合は、初回欠席者は受講できなくなる可能性もあります。

事前に質問がある場合 nihongo@ic.u-tokyo.ac.jp あてに問い合わせてください。

関連URL http://www.nkc.u-tokyo.ac.jp/index_j.html

最近数年間の受講学生諸君の声から

(授業終了後アンケートの自由記述欄から)

[全体について]

- 短い準備期間で、本来なら立てない教壇に立ってみるという授業だったので、準備は大変だったが、いろいろ楽しいことがあった。特に、日本語の似たことばの意味の違いについて、一緒に授業をする2人と話し合ったり、先生方のお話を聞いたりすることは大変楽しい経験であった。また、授業やその後のティーパーティで、留学生との交流の機会が持てたことも刺激的であった。実際に日本語教育に携わる先生方や、素晴らしい留学生の皆さんのお話を聞き、交流することができたのは、他にはない貴重な経験であった。(文Ⅲ 2年, 女性)
- 日本語教育の現状を知ることからはじまり、教材研究や留学生へのインタビュー、教案・教材作りと多くの過程をたどり、最後に教壇に立つという経験は、とても新鮮で興味深かったです。中でも、日常的に使っていることばの意味を改めて深く考え、どのように教えることが効果的かを考える作業が、大変でしたが、おもしろかったです。また、母語である日本語を深く考察し、学習者はどのように外国語としての日本語を身につけていくのかを知ることができてよかったです。思っていたより大変でしたが、何もかもが新しくとても刺激的なゼミでした。(文Ⅱ 1年, 男性)
- 普段自分達が当たり前のように使っている日本語を外国語として学んでいる学習者(特に初級レベルの学習者)に教えるという経験は想像以上の難しさでした。授業に対する準備量もさることながら、説明に使う言葉などの細部へのこだわりの存在に気付かされました。(中略) 今回のゼミは教えることの難しさもわかり、日本語の難しさもわかり、そして、それに対して一緒に取り組めた面白い考えを持った友達ができ楽しかったです(大変だったけど…)。ありがとうございました。(理Ⅰ 2年, 男性)
- 日本語について、教育について、留学生の皆さんとの交流について、どれもとても多くのことを学び、得ることができて、本当に良い経験をさせていただいた。このゼミで得た能力や思いは、今後も役立つと思う。(文Ⅰ 1年, 男性)
- 教案や、練習のワークシートに対して細かく徹底的にフィードバックを頂けたのがとてもためになりました。自分では思いつきもしなかった部分をご指摘いただいて、日本語を教えることの奥深さや複雑さを知りました。(文Ⅲ 2年, 女性)

[日本語について]

- この講座を受講して一番衝撃だったのは、自分がいかに日本語を知らないかということでした。(中略)自分が普段何も考えずに日本語を話していることに気づかされて驚くことが何度もありました。いろいろな言葉や文型について考察するうちに、もっと日本語について知りたいと思うようになったし、日本語の奥深さ、少なくとも奥深いということを知ることができました。(中略)多くの発見ができて、とても充実した3か月間でした。(文Ⅲ 1年, 女性)
- 普段意識されない日本語そのものについて、「教える」という過程の中で改めて意識していくのは大変興味深かった。(文Ⅲ 2年, 男性)
- 母語を相対化できる機会は、なかなかないので非常に貴重な経験だった。(文Ⅲ 2年, 男性)

[教えること, 授業設計, 学習者について]

- 普段自分が使っている言語について、それを学習者に理解できるレベルまで解きほぐして、さらにそれを分かりやすく伝える、ということがいかに難しいかわかった。(中略)そもそも人に物を教える、ということは、自分が知っていることを知らない人の気持ちというものを想像する、というとても難しい行為なのだ実感した。(理Ⅰ 2年, 男性)
- 「Teaching is Learning」という言葉があるが、まさにその通りだと思った。(文Ⅲ 2年, 男性)
- 教えるということは単純なことではないと、深く学びました。(中略)日本語教育に興味があったため、また日本語を教えたいと思っていたため、今回は貴重な体験をすることができました。(文Ⅲ 2年, 女性)
- 授業を作ることがこんなに大変だとは思いませんでした。どこまでも学習者のことを思いやって、学習者の気持ちになって教案を作ることが大切だということがわかりました。(中略)日本語教育には興味がありましたが、その実態はよく知らなかったので、このゼミで体験できてよかったです。日本語学習者の生の声を聞き、普段自分としては何気なく使っていた日本語の難しさに気づくきっかけになりました。(文Ⅲ 2年, 女性)
- すごく良い経験になった!(中略)終わった後に、よかったよ〜と学生が言ってくれて、うれしかった。最後まで教案にアドバイスを先生たちがくださって、すごく助け

られた。(中略)学生たちが積極的で、私も見習いたいと強く思った。4月に来て、あそこまでしゃべれる、聞けるようになるとはびっくり。(文Ⅲ 2年, 女性)

【日本語を教える経験を経て、自身の語学学習について思うこと】

- 留学生の語学学習に懸ける熱意はやはりすさまじいので、自分も負けないように学習していきたいと思った。(文Ⅲ 2年, 男性)
- 今回、教案を考える際には「留学生が使ってみたいと思うか」という観点で例文や練習などを考えた。しかし、自分の普段の語学学習において、そういう観点で学習しているだろうかと振り返ってみると、あまり自分の実生活と結びつけて学ぼうとしていないような気がした。(中略)もっと普段から、自分だったらこの表現をどういう場面で使うかということを考えながら学習して、もっと自分の語学学習を充実したものにしていきたい。(文Ⅲ 2年, 女性)

以 上